

健康ワンポイントアドバイス



発行：十日町市中魚沼郡医師会

発行日：平成29年11月発行

第184号

「子供のかぜ・・・より良い対応は？」

新潟県立十日町病院 小児科 部長 金山 哲也 先生

休日救急センターの時間外の受診は半数以上が小児という現実があります。今年は、例年秋から冬にかけて流行するRSウイルス感染症が早々と猛威を振るっており、手足口病も全国的に流行し時間外受診を賑わせました。またこれからはインフルエンザのシーズンにもなります。そこで小児の一般的な風邪や、はやり感染症に罹患したと思われる際、いつ、どのように対応すべきかについてお話させていただきます。

当地域はお母さんもお仕事されている共働き世帯が多く、できるだけ子供を保育施設に預け続けるため、効率の良い受診で効率よく風邪を治そうと日々頑張っておられるものと思います。ところが、小児の風邪や大半の感染症は、実態はウイルスの感染症なので、実は、早く治す薬がないんですよ・・・。抗生物質は菌(細菌)を退治する薬でウイルス属には効果がないのです。確かに菌の感染の方が肺炎や髄膜炎など怖い病気に至ってしまうことが数多く、当初は風邪だったのがその後こじらせて菌感染を併発するケースも時にありますので、未だ抗生物質を使うことは良くあります。ただ、今の時代は肺炎球菌やヒブなど菌の感染をワクチンで予防しているので、あまり抗生物質に頼らなくて良くなりました。

ウイルスに対しては、インフルエンザだけはウイルス増殖を抑える特効薬がありますが、RSウイルスも、手足口病も、ノロウイルスも自身の免疫力でウイルスを処理して回復するのを待つしかないのです。また熱を出す、咳・鼻水が出る、嘔吐するなどの症状は、実は、ウイルスを処理する免疫力を発揮している証でもあるのです。一般的に「かぜ症状」と思われている諸症状は、風邪ウイルスを追いやる「防御的」な現象であり、むやみに早く取り除こうとし過ぎない方が良いと思います。

よって、直接的には熱を放っておいても髄膜炎になる、だとか、咳が止まらないから肺炎になる、とかいうことはありません。ただどうしても、諸症状が夜通し続けば、心配になると思いますし、何もしないで見守るのも辛いと思うので、タイミングよく受診され、その子がそれほど悪い状態でないのをお医者さんに良く確認してもらいつつ、ある程度の処方を受けておくのがいいと思います。

結局のところ「あっ！うちの子風邪ひいた、早くお医者さん行って治してもらって、すぐに保育園に通えるようにしよう」と意気込んで早々に救急を受診しても、早く治す薬も注射もありませんし、症状を抑え込むことそのものも回復の早道になりません。

まずはゆっくり静養し、一定量の水分確保をして脱水症状を予防しつつ、子供さん自身の免疫力を発揮させる下地を確保するのが大切です。症状を抑え込んでも無理して社会に出る・・・と言うのは成人では多少許されても、小児にはそういう考えそのものが悪化するリスクになると私は思います。まずは冷静に・・・。「急がば休め」ですね。

